



世工振ニュース

編集・発行
 公益社団法人 世田谷工業振興協会
 〒154-0004 世田谷区太子堂2-16-7
 世田谷産業プラザ2階
 TEL (03) 3421-2863 FAX (03) 3422-4777
 E-mail: info@setagaya-ia.or.jp
 URL: https://www.setagaya-ia.or.jp/

【世工振】東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞を受賞 ～ 有限会社 飯田スプリング 飯田 保太郎 会長 ～

秋晴れの11月14日(火)、令和5年度「東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞」の表彰式が都内で行われ、当協会が推薦した有限会社 飯田スプリングの飯田保太郎会長が受賞されました。まことにめでとございます。

飯田さんは、昭和42年の入社以来、一貫してバネの製造に携わり、精密機器メーカーへの試作段階からの製造協力では、群を抜いて高い評価を受け、我が国の精密機器の開発をけん引してこられました。また、平成16年より(公社)世田谷工業振興協会の理事を務められています。

飯田さんは「ほかのバネ屋さんにも立派な人がいるのに、悪いなあ～」と謙遜されていました。



【世工振】2024年 新春経済講演会・賀詞交歓会のご案内

2024年1月19日(金)に、「新春経済講演会」を三茶しゃれなあど5階オリオンで、「賀詞交歓会」を三軒茶屋キャロットタワーにて開催いたします。



新春経済講演会

日時 1月19日(金) 15時～16時30分

場所 三茶しゃれなあど5階オリオン

講師 寺島 実郎 (一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長)

演題 『世界史的転換点に立つ日本 ～21世紀・未来圏への視界』
 ・日本はどこに進むべきか、世田谷との半世紀を踏まえて



新年賀詞交歓会

日時 1月19日(金) 17時30分開会

会場 キャロットタワー26階 オークラレストラン スカイキャロット

会費 10,000円(立食形式)

※ 関係者様には別途正式なご案内を送付いたします。



【世工振】せたがや産業フェスタ2023に出展(青年部会)

10月29日(日)せたがや産業フェスタ2023が三軒茶屋ふれあい広場、世田谷産業プラザで盛大に開催されました。従来は土曜日に行っていましたが、今年度は初の日曜日開催で、午後からの茶沢通りの歩行者天国もあり、多くの親子連れの方々が来場されました。

世工振青年部会は、木材(ヒノキ)の端材を使ったはしづくりのコーナーを開き、活況を呈しました。参加した子ども達は楽しんでくれました。中には、親(父)の方が集中して鉋(かんな)で削っており、子供達より真剣な様子も見られました。また、リピートで来た方もいらっしゃいました。



【世工振】「新時代」環境経営と企業力改善セミナーを開催

3年間に及ぶパンデミックもようやく終息が見えて来ました。この間「ニューノーマル時代の潮流を読む！」と題して毎年セミナーを開催してきましたが、私たちの生活のあり方も、コロナ禍とIT技術の進展により大きく変化しています。あえて考えたり立ち止まったりすることも、必要かもしれません。今年はこれらのことを共に考えてみたいと、11月9日(木)に、明治大学情報コミュニケーション学部教授・博士(工学)の石川幹人(まさと)先生をお招きしました。

ChatGPTにより、まるで人間が作文したような文章をAIが回答し、フェイク(うそ)が混じり、事実かフェイクかが、ますます見抜きにくくなっており、動画が事実の確認に使えなくなりつつあるとの指摘もありました。そして、AIが常に信頼できるわけではない、AIが身近になってくるが、AI乱立の時代になるとの話がありました。



【世工振】フォーラム SKK' 89 定例会にて

11月7日(火)の定例会に、世田谷区の岩本副区長、工業・ものづくり・雇用促進課長が出席され、荒井課長より『世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議答申(案)』についての説明がありました。岩本副区長からは「お声がけいただきありがたく、勉強させていただきます。工業は商業や農業に比べて見えづらい。準工業地域の保全や既存の工場の建て替えなどのテーマは分かりやすいが、大きな意味でその企業が、どこで何を生産するかなどは、基礎自治体である(世田谷)区の範疇を超えているところが大きいと思う」などの挨拶があり、工業の振興・補助を行っている区行政のかじ取りの難しさを垣間見ることが出来ました。



【世田谷区】会員企業訪問記 ⑧ (工業・ものづくり・雇用促進課より)

株式会社 橋光学 (光学硝子・素子の製造・販売) 10月26日訪問

当日は、橋康雄代表取締役にて作業場の見学とともに、事業のご説明をしていただきました。

同社は1961年(昭和36年)に弦巻で設立され、現在は駒沢の工場と2拠点で事業を営まれています。創業当初はプリズムレンズ加工などを手掛け、量産品なども扱われていましたが、現在では技術を活かした、一点物から特殊なものまでお客様の要望に沿ったレンズを作成するほか、光学硝子や石英の加工等も手掛けていらっしゃいます。現在も幅広い製品に使用されているレンズですが、同社では最大550mmから最小1mmくらいまでのレンズ作成を可能とし、また、かまぼこ型のシリンドリカルレンズと呼ばれる加工が難しい特殊レンズの作成を得意とされています。作業工程において機械による作業もありますが、人の手による長年の経験に基づいた作業が入ることで専門性の高いレンズでも精度の高い製品を仕上げられています。見学当日は2021年東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞を受賞された和井田昇司さんが、実際に石英レンズを加工している現場を拝見させていただきました。

最近の仕事では、六本木に設置されているスマート街路灯のガラス部分の作成を担当されたり、レーザー加工技術を活用して、硝子の名刺、ウイスキーボトルへの文字彫りなどのほか、オーダーメイドギフト商品の製作に取り組まれるなど、法人個人問わず活動の場を幅広く展開されているとのことでした。

近年は光学を手掛ける会社が後継者不足より減少し、高い技術を持った職人が減っているとのことでしたが、私たちの生活に欠かせない製品に多く組み込まれているレンズが一つ一つ加工・製造されている場面を拝見させていただき、改めて技術承継の必要性について認識させられました。

お忙しい中、ご対応いただきましてありがとうございました。

